

小学校 学力調査の結果より

【国語】

無解答率が全国より良好な結果となり、「挑戦してみよう」と思える環境づくりがなされていると考えられます。また、これまで課題とされていた漢字の書き取りは、全国と同等の結果となりました。一方で、資料の読み取りや情報の取扱いに関しては依然として課題が残されています。

今後は、本文と資料を結びつけたり、複数の資料を見比べたりする活動の充実が求められます。

【算数】

計算問題や台形の性質の理解、資料からの立式など、基本的な知識・技能については定着していることがわかります。無解答率からも、最後まで諦めることなく、粘り強く取り組む意欲が感じられます。一方で、数や言葉を用いた記述問題や割合を扱う問題については課題が見られます。今後も、学習内容と日常生活を結びつける指導が必要となります。

【理科】

無解答率は令和4年度調査から大きな改善がみられ、わからなくても最後まで解答しようとする前向きな姿勢がうかがえました。一方、「エネルギー」や「生命」を柱とする問題では、問題形式を問わず、課題がみられました。今後、「なぜだろう」「どうなるかな」という気づきを大切に、生活や他教科とのつながりを意識した指導の工夫が求められます。

中学校 学力調査の結果より

【国語】

短答式・選択式問題の正答率は、おおむね全国水準に到達しており、基礎的な力が確実に定着していることがわかります。無解答率についても全国と同等の結果となりました。一方で、昨年度同様、記述式の解答には課題がみられます。これからの学習活動とあわせて、根拠をもとに自分の考えを説明したり、読む人の立場に立って文章を整えたりする力の育成を図る必要があります。

【数学】

「数学の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という質問に対して、8割近くの生徒が肯定的な解答をしており、全国平均を上回っています。しかし、無解答率や正答率には課題がみられ、より一層危機感をもって現状の把握に努める必要があります。特に、数学的な用語を意識して使い、考えを言語化する習慣をつけることが求められます。

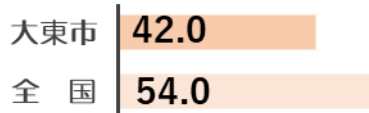
【理科】

全国的に多くの生徒が正答している問題については、大東市子どもたちもおおむね対応できており、一定の力がついていることがわかります。無解答率についても全国との差は1.0ポイント以下に収まり、最後まで諦めずに解答している様子が見えます。今後も基礎的な知識の定着を図るとともに、観察・実験を通じた学習を充実させ、より一層、確かな学力の定着をめざす必要があります。

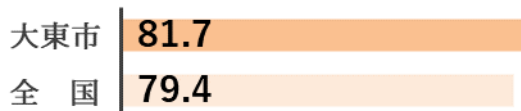
児童・生徒質問紙より

小学校（第6学年）

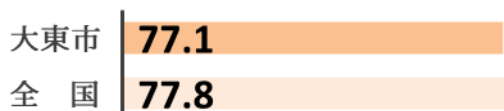
● 平日、学校以外で1時間以上勉強する



● 学びを振り返り、次の学習につなげている



● 学びを生かして自分の考えをまとめている

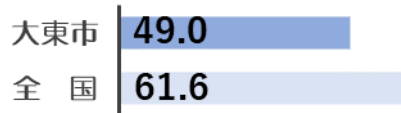


大東市教育委員会では、大東市教育大綱及び「だいう教育ビジョン」の「大東のめざす子ども像」実現に向けて、授業改善に取り組んでいます。

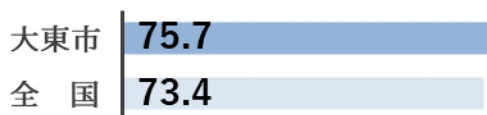


中学校（第3学年）

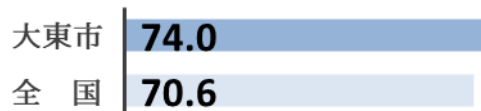
● 平日、学校以外で1時間以上勉強する



● 学びを振り返り、次の学習につなげている



● 学びを生かして自分の考えをまとめている



小・中学校共に、朝食の有無や就寝・起床時刻等の基本的な生活習慣は全国並でした。一方で、家庭学習の状況は全国平均を大きく下回っており、今後はICTを効果的に組み合わせ、家庭学習の習慣化を図るとともに学びの質を高めていく必要があります。また、子どもたちは、友だちと一緒に考えながら自分の学びを見つめ直し、次につなげようとしています。これからも、家庭や学校、地域が一緒になって子どもたちを見守り、子どもたちの学びや成長を支えていきたいと考えています。